

## 西田 勇先生 を 偲 ん で

倉敷芸術科学大学 村上 哲 英  
香川医科大学生理学講座 徳 田 雅 明



日本生理学会特別会員で元香川医科大学学長の西田勇先生は、病氣療養中のところ、去る平成11年11月8日に逝去になられました。享年83歳でした。

先生が愛して止まなかった香川医科大学の学生の教育のために役立ててほしいとの強いご遺志で、ご遺体は香川医科大学にご献体されました。また葬儀や告別式も不要とのご遺志に従い、我々弟子達としては淋しい想いもありますが、それぞれの胸の中で先生を偲びご冥福をお祈りすることといたしました。派手なことを嫌われ、周囲の人々に常に深い思いやりをお持ちであった先生らしいご配慮です。

先生は昭和15年岡山医科大学をご卒業後、直ちに生理学教室において航空医学の研究に従事されました。そして「酸素分圧を常圧と等しくする低圧時の瓦斯代謝」の研究業績により、昭和19年第一回の結城賞を受賞されました。鳥取大学医学部教授時代においては、岡山大学助教時代から手がけていた瞳孔反射路の研究を完成されました。この研究成果は学会においても注目を浴び現在も広く生理学の教科書や参考書に引用されています。またこの瞳孔反射に関する研究中、角膜から遊離される縮瞳物質(コルニン)を発見され、その後細胞分裂調節因子の研究に注がれました。この研究により「細胞分子生理学」の学問分野の確立に多大な貢献をされました。

先生は昭和44年4月から昭和46年3月まで岡山大

学医学部長となられ学長を補佐されましたが、この当時は学園紛争の最も激烈な頃であり、学内には過激派学生が横行している状況で大変な時でした。先生は率先して学園の平穩を堅持するために彼らと団交を重ねられ、昼夜細心の努力を払われ問題の解決に貢献されました。お酒などを召し上がられた時に、懐かしそうなご表情でその頃のことをお話なさっておられました。細身のお身体のどこにその様な激しさ強さが宿っているのだらうと、私達は驚いたものでした。

昭和53年10月香川医科大学が開設されるにあたり初代副学長(教育研究厚生補導担当)となられ、教育研究体制の整備のため、中心となって企画立案にあたられました。大講座制の導入、6年間一貫教育システムの構築、大学院の開設など数々の事業を展開されました。昭和63年4月に学長ご就任以後は、国際化・地域化・個性化を三大目標に掲げられ、一層の情熱を傾注されました。平成元年3月には香川医科大学主催の国際シンポジウム「生体における情報処理機構～細胞から個体へ～」の開催に名誉会長としてご尽力されました。また同年7月にはカナダ・カルガリ大学医学部と国際学術交流協定を締結し国際交流の基礎を築かれました。個性化については、平成元年度のカリキュラムの大幅改訂に伴い、研究医学や基礎医学実習の開設など学生の研究への志向

を高める施策を行われました。地域化としては、県下の医療への貢献だけでなく、地域社会の教育や学術・文化の向上、発展にも大きく寄与されました。そして1期3年間でご公約の大部分を成し遂げられ、惜しまれながら後進に道をお譲りになられました。

先生は五十有余年にわたって、医学教育と研究に専念され、多くの優れた研究業績を残すと共に、温厚誠実で多くの人に敬愛される人間味豊かな教育者として熱心に後進の指導をされ、多数の有為な人材を育成されました。また平成4年には学業成績・人格ともに優秀な医学生の育成のためにと香川医科大学に私財を投じられ、これは「西田賞」として今も

大学院研究者の目標になっています。

このように先生は豊かな人間性と人間尊重の精神を深く思索するとともに、豊かな教養と倫理感を備えた医師・医学研究者の育成を教育理念として情熱を燃やし続けられました。先生の教育・研究への卓越したご功績に対し、平成3年11月3日には勲二等旭日重光章が授与されました。

先生の直接の教えを受けた私どもといたしましては、先生の高邁な哲学を受け継ぎ、より良い教育と研究の実現に向けて努力を続けていくことが、先生に対する唯一の恩返しであると肝に銘じているところであります。西田勇先生のご冥福を心よりお祈り申し上げます。